

日本を発信する、 業界を越えた 協力関係づくり

新日本ウエックス株式会社
代表取締役社長 廣瀬 純平



あけましておめでとうございます。

本年も変わらぬご愛顧をいただきますようお願い申し上げます。

さて、2020年の東京オリンピックは世界中からあらゆる方がいらっしゃいます。

私もこの折に日本のすばらしさをアピールし、世界から多くの観光客が押し寄せる観光立国にと期待したい一人です。そしてその頃までには、多くの観光客のニーズに対応できるサービスが必要です。来日された方たちに対応できる宿泊やサービスプランがあり、同時に相応の情報発信ができていく環境が整備されていることも重要だと考えています。

現在、当社のリネンサプライは国内でもおよそ450のホテル、約7000軒のレストランにご採用いただいておりますが、そこから見えてくるサービス業界の様相は、価格志向と高級の二極化が進んでいるように伺えます。

現在も、格安弾丸ツアーなどは国内外の旅行代理店企画が非常に充実しており、情報も選択肢もよりどりみどりの状態である一方、最高級スイートルーム、なかなか予約の取れないレストラン、ヘリや船のチャーターなど、あまり裾野の広がらない高額サービスのニーズに応えきれない印象があります。世界を見渡せば、東京観光をした足で大阪の夜を満喫し、京都の宿に泊まりたいという富裕層のお客

さまは大勢存在します。そのような顧客層の求めるプレミアム感の高いサービスに対応するため、ホテルやレストラン、交通手段など業界の垣根を越えた相互協力関係づくり、コンシェルジュの育成、そして同時に官民一体となった広報の体制づくりを行ない、情報を発信していく必要があると感じています。

日本は、諸外国にアピールできるものをたくさん持っています。例えば「四季」や「歴史と歴史的建造物」、「世界一の三ツ星レストラン」といった観光資源であったり、「優しい」「勤勉」という国民性、さらに「安全」、といった点は世界から高い評価をうけています。そういった日本の持つ風土をベースに、世界中のあらゆる層からの顧客ニーズに対応できるよう、それぞれの企業が提供するサービス内容に幅を持たせれば、日本全体が「観光立国」として多くのリピーターを獲得できるのではないのでしょうか。

まずは東京オリンピックを第一の目標に、そしてその先「日本」に魅力を感じ何度も足を運んでいただけるようなおもてなしを、私たちで作り上げていけたら嬉しいと思っています。